

編集後記

◆昨年、宇宙基本法が改悪され、JAXAが防衛省の傘下に入り、有人飛行は放棄し、GPSを独自に開発することを決めました。そして、3月、日米政府は、GPSの共同開発を決めました。「憲法を守れ」、「9条があるから戦争で人を殺してはいけない」という言説の反改憲の運動は改憲勢力に対抗できなくなっている。

なぜか、様々な運動体と友好的献身的に繋がる事を考えることや、人との繋がりは相手の顔を見るときという原則が崩れているように思う。それを克服する道は、現にいる私の前の仲間たちの顔との対話でしかない。(有馬保彦)

◆久しぶりに校正のお手伝い。和氣謙々、しかし熱気と真剣味あふれる雰囲気のおかげでゲラを読む。日頃、軟弱な読み物に慣れた目には、なかなかほかどらない。

過日、視覚障害の友人が「この頃の自然は苛烈ね」と嘆いていた。激しい寒暖の差、記録的な強風——いずれも白杖を頼りに歩く身には脅威の由。脅威といえは、アベノミクスに躍る昨今の風潮も。後年の歴史書に「平和憲法の転換点」と記録されることのないように切に切に願う。(いくみえいこ)

◆本誌が隔月刊ということは、毎号の制作サイクルが2ヵ月ということ。前号の反省をふ

くむ編集会議で次号の企画を提案することから、入稿・仕上げにいたるまで、最も気の抜けないのは編集長、そして印刷所の皆さんだが、会議で執筆候補者の名を挙げたりすると、執筆交渉の仕事がまわってくることもある。校正作業も、今日のように皆が寄り集まってワイワイにぎやかにやる習慣だ。(高橋武智)

◆このごろ、市民運動圏の文章について感ずるところあり。今号でも、読み取りに少々苦労する文章も散見。左翼圏内で流通する符牒に頼ってはいないでしょうか。

小生、目下、市民意見広告運動事務作業に専念。全国から寄せられた賛同金のPC入力も、かなりの量になってきました。この作業のおかげで、地名と人名の勉強が果たせまざるほど、この漢字で、こういう読み方もできるのかと感心することもしばしばです。

(つしまつとむ/本号担当)

◆今年の冬は寒さが厳しい、と愚痴っているうちに早足で春が来て、桜が咲いてしまった。毎号校正作業の日には、6〜7人が集まってスナック菓子をかじりながら赤ペンを走らせる。その昔、ある本の後記の中で筆者が「数々の事情により刊行が遅れ……」と書いていた、という有名な話(真偽の程は不明)があるが、それほど劇的(?)なケースは滅多にないとはいえず、世に誤植ほど恐ろしいものはないと自らに言い聞かせている。(本野義雄)

◆「反戦交友録」は、前号に母のことを書き、

逝去していない人の話を載せたところで、しばらくこの欄はお休みにさせて頂こうと思っ
ていました。ですが、最近、京都の大沢真一郎さん、そして昨日(3月23日)になって村井吉敬さん逝去の報に接しました。どちらも本会のメンバーで、私よりもずっと若いすぐれた学者で、活発な市民運動家でもありました。ショックでした。残念で、心からの哀悼の意を表します。(吉川勇二)

◆「市民意見広告運動」討論集を開きました(本誌P4掲載)。「対話」をキーワードにした新鮮な会にしたいと思っておりましたが、存外に好評を頂いてホッとしています。

5月3日の新聞に掲載する意見広告も「言いたいことを言う」だけではなく、鈴木一誌さんの言う「モザイク的市民」と対話できるメッセージになればと思います。鎌田慧さんが言う「気持ちを含ませる」も、自分に真の自信があれば寛容になれるはず。受け身の反対運動に留まらず攻勢をかけるには、他人任せではない自分の言葉と戦略を持つべきことなど、様々なことを考えさせられる一日でした。そんなわけで、本誌も読者との対話を目指します。まずは編集後記の掲載紙面を従来の約3倍に広げ、なるべく多くの編集委員の肉声をお届けすることにしました。その分、インフォメーション欄が削られました。すみません。崔勝久さんの記事(本誌P22掲載)にあるように、本会へのご意見も遠慮なくどしどしお寄せ下さい。(野澤信一/本号担当)